

君津中央病院ペアレントトレーニング実施要綱

1 背景

医療現場において、親たちから「子どもの問題行動に対してどう対応をするのがよいか」という相談を受けることが多々ある。発達障害を持つ子どもを育てることは、定型発達の子どもの育てるよりも様々な工夫や配慮が必要であり、親は、日々危険な行動や他者とのトラブルを繰り返す子どもの対応に疲弊してしまっていることが多い。また、家庭内では、そういった子どもの問題行動を起因とした悪循環が起りやすく、親子関係もうまくいっていないと感じられることが、子どもの年齢と共に増えていく。

このような問題の放置は、将来の虐待への発展や、二次障害として暴力や不登校など深刻で解決が難しい問題を引き起こす危険因子となる。

2 目的

上記の子育てに悩む親へのサポートのひとつに、ペアレントトレーニングがある。これは、子どもへの対応方法を行動療法に基づいたプログラムで学び、実践し、振り返るという流れを繰り返し、親そして家庭の中に定着を図るものである。この流れが定着することで親子関係が改善し、子どもの問題行動の減少、自尊心の向上、自己コントロール力の獲得等、様々な効果が期待される。

要約すると、ペアレントトレーニングとは、子どもの問題行動について困っている親をサポートすることで子育ての負担及び疲弊感を緩和し、もって将来起こり得る深刻で解決が難しい問題を予防していくことを目的とする。

3 対象等

- (1) 4から10歳程度のADHD又はグレーゾーンの子どもの育てている或いは育児に不安を感じている親
- (2) 母親のみではなく、父親の参加も受け入れる。
- (3) 原則全10回に参加可能であることを参加条件とする。
- (4) 募集範囲に関しては、当面は、当院リハビリテーション科に通院している患者及び当院小児外来に通院している患者の親に限定する。そして、スタッフが運営に慣れてきたところで、地域に向けて希望者を募っていく。

4 実施方法

(1) 実施方式

- ア 実施時間 第2、4火曜日9時30分から11時00分まで（全10回）
- イ メンバー構成
 - (ア) ファシリテーター（臨床心理士）

(イ) サポーター（小児科保育士）

(ウ) 2から6名程度のグループ（親自身の顕著な性格の偏りや、心理情緒的な問題、深刻な夫婦間の問題を抱えている場合は、個別での実施を検討する。）

ウ 場所 4階講堂

エ 必要なもの ホワイトボード、椅子、バインダー、毎回のレジュメ（親への配付）

(2) プログラム内容

ア オリエンテーション 行動を3つに分ける

イ 好ましい行動：肯定的注目を与える ほめる

ウ 好ましくない行動：注目を取り去る 無視

エ 無視とほめるの組合せ

オ 効果的な指示の出し方

カ 効果的な指示の出し方2

キ よりよい行動チャート（BBC）

ク 許しがたい行動：制限を設ける

ケ 学校との連携

コ ふりかえり

※初回のみ オリエンテーション、アイスブレイク、講義

初回以降 宿題の振り返り、講義、ロールプレイ、次回の宿題について

5 申し込み方法

(1) トレーニング希望者は、リハビリテーション科受付窓口に配置した申込用紙に必要事項を記入の上、同受付に提出する。

(2) 申込み期限は、トレーニング開講日の1週間前までとする。

6 実施期間

(1) 第1期は、平成30年11月13日から平成31年3月19日に実施する。

(2) 第2期は、平成31年5月から10月に実施し、以降は、受講希望に応じて開講日程を調整していく。

7 その他

(1) 本事業の庶務は、事務局庶務課が務める。

(2) 本事業に係る具体的な問合せは、ファシリテーターが対応する。

附 則

この要綱は、平成30年10月24日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年8月27日から施行する。